

# 清新中学校だより 清風

令和4年4月28日  
第195号

## 「自分という飛行機」を飛ばすために

校長 江戸谷 智章

今から100年以上も昔、人が空を飛ぶといったら気球やグライダーといった飛行手段以外に考えられなかった時代に、世界で初めてエンジンを載(の)せた飛行機を発明し、有人飛行を成功させた「ライト兄弟 (Wright Brothers)」について、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

ライト兄弟がこの快挙をなし得た当初は、この事実を誰も信じる者はなく、様々な報道や有名な学者でさえも、「機械が飛ぶなんていうことは科学的に不可能だ」といったコメントがあちこちで発表されてたといひます。

今でこそ飛行機の存在を否定する人などいませんが、当時の誰もが「不可能」と考えていた動力飛行を成功させようとしたライト兄弟の原動力は一体どこにあったのでしょうか。俗に言う、「夢をあきらめない心」、「高い志(こころざし)」、「強い意志」など、一言で表現しようと思えばいくつもの言葉が当てはまるものと思ひますが、世の中が常識と考えるようなことにあえて異を唱え、そのことに生涯をかけて挑戦しようとすることは、言葉で言うほど簡単ではないように思ひます。

実は数年前、このライト兄弟が数々の失敗を繰り返しながらも、どうして空を飛べたのかについて分析した佐貫亦男(さぬきまたお)さんという日本の航空宇宙評論家の存在を知りました。彼はある著書の中で、ライト兄弟がこの偉業をなし得た理由を次のように端的(たんてき)に語っています(注)。

『ライト兄弟が空を飛べたのは、自らが操縦桿(そうじゅうかん)を握ったからだ』と。

この言葉にはとても深い意味がかくされているように思ひます。当時の多くの研究者たちは、当然なことですが、エンジンを載せた重い飛行機が空を飛べるなど信じる者はなく、そもそも、研究者自身が危険をおかしてまで飛行機を製作しようなどといった発想もなかったといひます。しかし飛行機の実用化を本気でめざす彼らは、あえてアメリカ有数の強風地で知られる海岸を実験場に選んでまで研究に取り組み、可能性がわずかでもあればそこに挑み研究に取り組んだといひます。もちろん実験の度に命を落とすわけにはいきません。先人達のこれまでの失敗例などを細かく分析し、わずか10日間あまりで、700回超える実験を積み重ねるほどの熱の入れようだったといひます。

彼らは空という不安定な環境に向き合い試行錯誤をする中で、飛行機を安定して飛ばすためには、機体自体の安定性ばかりでなく、パイロットの飛行技術も大切な要因なのではないかということをもつて感じるのです。まさにこれは自分自身が経験しなくてはわからない事実です。

しかしそうはいっても事は簡単ではありません。当時の常識を覆(くつがえ)すほどの研究です。事実、度重なる実験の失敗に、彼ら自身も、「人間が空を飛べるようになるまでには、あと50年はかかる」などと嘆(なげ)いたこともあったといひます。

そしてある日、ライト兄弟は3.5秒間の飛行を成功させます。距離にして32mの飛行です。今の時代でしたら笑い飛ばされてしまうような記録かも知れません。また、普通の人なら、「やっぱりここまでか」と限界を定めてしまうようにも思ひます。しかし彼らはどこまでもプラス思考で、このわずかとも言える成果をきっかけに、より長く、より安定させるためにどうあるべきか、さらなる改革に取り組んでいくのです。

できることなら余計な苦勞や面倒なことは避けて通りたいと思ひるのは、誰しもが考えることです。また、過去に経験した数度の失敗がトラウマとなって、どうせ無理だと限界を定めてしまったり、自分が経験したわけでもないのに「世の中が〇〇と考えるから・・・」、「ネット上で〇〇と言われているから・・・」などと思ひ込んでしまったりする傾向も私たちにはあるように思ひます。

私たちの前途はけっして順風満帆なことばかりではありません。目の前に壁が立ちはだかったとき、自分自身が操縦桿を握るのか、それとも誰かに託(たく)してしまうのか。「自分という飛行機」を操縦できるのは、どこまでも自分でしかないことをライト兄弟から教わったような気がします。

(注)『不安定からの発想』(佐貫亦男著、講談社学術文庫)から一部引用



# 「読解力が高まるのほいつ？ 今でしょう」

生徒指導主任 鈴木 留美子

桃から生まれた桃太郎、亀に乗って竜宮城へ行く浦島太郎、クマと相撲をとる金太郎、誰もが知っている昔話の代表作です。今となっては、桃から人は生まれませんし、亀に乗れたとしても無酸素での潜水は限界がある。ましてや、クマと相撲をとるとなると重傷は免れない。けれど、幼い頃の自分は、到底ありえない事だと思っただけでも、非現実の世界を楽しみ、ページをめくるたびに物語に引き込まれていたのを思い出します。では、皆さんはいつから本の内容をそのまま真に受け止めるのではなく、「そんなことありえない」「ただの偶然だろう」と、疑問に感じたのでしょうか。解剖学者の養老孟司先生によると、中学生は動物で言えば群れから離れて自立していく時期であり、ゆくゆくは自分のテリトリーをつくって生きていくもの。「そういうものだ」と、深く考えることもなく物事に疑問を感じない状況から、「なぜ、そうなるのか」と、疑いや疑問を積み重ねることで価値観が構築され、それが読解力のスイッチとなり「読んでたまるか」という反抗期（思春期）に最もピークに達するそうです。



では、本校の実態はどうでしょうか。昨年度の全国学力・学習状況調査（昨年度中学3年生276名から）によると、平日のゲーム時間が3時間以上4時間未満と答えた人が106人、平日に読書をまったくしない人が121名いました。一概には言えませんが、読解力の低下に読書習慣の減少や、動画配信の長時間視聴、ゲームに費やす時間が少なからず関係しているように思えます。



疑いや疑問は日常生活のいたるところに存在します。しかし、日々のルーティーンの中では、経験したくとも到底経験できないことのほうが大半です。そこで是非、(旧)図書委員会の方たちのおすすめ本や、先生方のおすすめ本を参考にしてもらい、様々なジャンルの本から自分なりの正解を導き出して欲しいと思います。

疑いや疑問は日常生活のいたるところに存在します。しかし、日々のルーティーンの中では、経験したくとも到底経験できないことのほうが大半です。そこで是非、(旧)図書委員会の方たちのおすすめ本や、先生方のおすすめ本を参考にしてもらい、様々なジャンルの本から自分なりの正解を導き出して欲しいと思います。

## 5月の主な日程

※下記の日程につきましては、今後変更が予想されます。ご了承ください。

5月 ※月・木は原則諸活動なし

- 1日(日) 開校記念日
- 2日(月) 代休(5月7日の振替休日)
- 3日(火) 憲法記念日
- 4日(水) みどりの日
- 5日(木) こどもの日
- 6日(金) 平常日課
- 7日(土) PTA総会(書面)  
部活動保護者会 諸活動なし
- 9日(月) 教育実習開始~27日
- 10日(火) 小中引き渡し訓練(1年対象)  
諸活動なし
- 11日(水) 生徒会委員会
- 12日(木) PTAブロック総会



- 14日(土) 市P連定期総会
- 16日(月) 内科検診③ 国際級おはなし会  
小中一貫の日
- 19日(木) 修学旅行荷物積み込み(3年)  
修学旅行前日OT
- 20日(金) 3年修学旅行広島・京都~22日
- 23日(月) 3年修学旅行代休(21日土曜分)
- 24日(火) 3年修学旅行代休(22日日曜分)  
教育相談①
- 25日(水) 教育相談② 眼科検診
- 26日(木) 教育相談③
- 27日(金) 生徒会中央議会
- 30日(月) 諸費集金日①
- 31日(火) 教育相談④

